

嘆願

中野
劇団

嘆願

作・中野 守 (中野劇団)

登場人物

夫

妻

初老

マンションの下。管理人室から出て来た初老の男を待ち伏せしていた一組の夫婦。何かを嘆願するように行く道を阻む。交わす初老の男。引き止め、しがみつくと夫婦。振り払う初老の男。しがみつきに來る二人を辛うじてかわし続ける初老の男。

夫 妻

お願いします！

どうかあ！

初老 ちよっと。

夫 こんなことお願いできる立場でないことはわかっています。

初老 やめて下さい。

妻 どうかあ！

初老 できません。

妻 どうかあ！

初老 やめて下さい。近所迷惑です。

夫 お願いします。

妻 どうかあ！

初老 決まりなんです。

夫 わかっています。わかっています。お願いしているんです。

初老 ルールを曲げるわけにはいかないんです。ひとり許せば、後から

なし崩しのに許さざるを得なくなる。秩序があるからみんな生き

ていけるんじゃないですか。

妻 それでも、引き下がれません！ どうかあ！

夫、土下座。額を地面にこすりつける。

初老　ちよつと、坂口さん、やめて下さい。

妻　どうかあ！

初老　何度も言わせないで下さい、坂口さん！

夫婦　……。

初老　このマンションで猫を飼っちゃいけないんです。

間。

夫　管理人さん、そこを何とか。一匹（中指）だけですから！

初老　一匹でも駄目です！

妻　これだけ頼んでるのに！

初老　指はそうでもないですよね！……無理なものは無理ですから！

夫　それでも、引き下がれません！

初老

何故？

夫

凄く可愛いから！

初老

マンションには猫が嫌いな人だっているんです。猫アレルギーの方もいるんです。

夫

そんなこと言ったら家内なんか、猫飼えないマンションアレルギーなのを我慢してるんですよ。

初老

だったら猫を飼ってもいいマンションに移ればいいでしょう。

夫

……い、い、今にやんと？

初老

はあ!?

妻

猫を飼ってもいいマンションに引っ越せと？ さもなくば死ぬと？

初老

誰も死ぬなんて言ってないでしょう！ 何でそんな大袈裟なんですか！

妻

猫飼うを許してもらえないと、死ぬ言われると何が違うか！

初老

何で片言なんですか！ 全然違うでしょ。大人なんだから我慢し

夫 てくださいよ。

初老 ……わかりました。

夫 ホントにこんな……。

初老 大人やめます。

妻 は？

夫 (子どもで) おじちゃん、猫飼って。

妻 (更にデIFOルメ) のじちゃ、こ、って！

初老 わかってないじゃないですか。警察を呼びますよ。

夫 凄い数の猫呼びますよ。

初老 何で！

夫妻 どうかあ！

初老 帰れ！

間。

妻 主人は……猫が、大好きなんです！

初老 聞いてたらわかりますよ！

妻 私の名前、早苗っていうんです。早い苗の。主人は私の名前の苗の字に片っ端から獣偏をつけてくほどで。

初老 ああ、猫って字ね。知りませんよ。

夫、紙を取り出ている。

夫 更に「早い」の字の縦棒伸ばして下に横棒と点四つ足したら。

初老 「黒」って字になるんですよ。黒と猫で……。

広げて見せる。黒猫という字が黒猫の形をしている。

初老 黒猫（ガビン）！ 黒猫（の形）になってるーから何？

夫、嘆願の笑みを浮かべ、黒猫の紙を折り曲げ、金を受け取ってもらうように渡

そうとしながら「これで何とか」とかブツブツ言っている。

初老 要りませんよ！ いいですか、駄目なもんは駄目なんです。

妻 でしたら家賃をタダに。

初老 何言ってるんですか！

夫、土下座。

夫 猫を飼っていいと言うまで、ここを一步も動かないように！（足

元を指す）

初老 何で！ 何で命令されなきゃいけないの！ いい加減にして下さ

い。……夜中の二時ですよ。

夫 何故ですか。何故いけないのですか。

初老 だから！ 今説明したでしょう？

妻 ちゃんと猫の立場に立って答えて下さいよ。

初老 何で？ そんな必要ないでしょう。

夫 立派な人だ。あなたは管理人としては立派です。しかし、猫を飼っ

てもいいマンションの管理人に較べると全然駄目です！

初老 較べようが何しようが駄目なもんは駄目です。お引き取り下さい。

妻 どうかあ！

夫 猫、嫌いなんですか。

初老 嫌いとか好きとかは関係ないんです。飼えないと決まってるんで

す。

妻 主人はね、……気が短いんです。

初老 ……脅しですか？

妻 それも病院に通わなければならぬほどのね。でも治りかけにな

ると行かなくなるんです。気が短いんで。

初老 知りませんよ！

妻 医者に言われました。主人は、長くないって！

初老 だから「気が」でしょ？

妻 明日事故で死ぬかも知れない体なんです！！

初老

みんなそうです！

夫

象を飼うと言ってるわけじゃないんです。

初老

当たり前ですよ！ 何言ってるんですか。

夫

こんな小さい猫なんです（手振りが大きい）。

初老

大きさはじゃないん、おっきい！ 猫は駄目です！

妻

だったら猫以外のネコ科なら！

初老

猫以外のネコ科ってやばそうなのばかりじゃないですか！ バカ

じゃないんですか！

妻、初老を殴る。

初老

ちょっと！ 何で殴るんですか。

妻

ごめんなさい！ 今のは嘘です！

初老

殴っておいて「嘘です」って何ですか！ 奥さんじゃないですか！

気が短いの！

妻 夫

ううう。

あなた？ あなた？

夫、自由度の高い壊れ方で壊れる。

妻

あなた！ あなた！ 肉球よ。

妻、肉球を取り出して夫に差し出す。

夫

肉球。肉球……。。

夫、肉球を手にして徐々に理性を取り戻す。

初老

なな、何なんですか！

妻

予備の肉球です。

初老

何の(予備)!?

妻 主人は暴力を見るとこうなるんですよ!!

尋常でない泣き方の妻。

初老 奥さんが見せたんでしょ！ ホント、勘弁して下さいよ！ 毎晩

毎晩！

妻 ……あなた、もう行きましよう。

夫 ああ。がっかりだ。行こう。

妻 ……管理人さんだってマンションに飼われているくせに……。

初老 帰れ！

夫婦、走り去る。終わり。